

旭硝子株式会社 2016 年度第 3 四半期決算 主な質疑応答

経営企画部広報・IR 室

Q1 第2四半期に計上した一時利益約30億円がはく落した分は、決算説明会資料(P. 15)の営業利益増減要因分析(前四半期比)のどの項目に含まれているのでしょうか？

A1 第2四半期比で「コストその他」約20億円のマイナス要因、「原燃材料価格」約10億円のマイナス要因となっています。

Q2 欧州建築用ガラス事業について。昨年度は暖冬だったこともあり需要が落ちなかったとのことですが、第4四半期の需給動向の見通しを教えてください。

A2 好調が続く自動車分にガラスを振り向けていることもあり、建築用ガラスの需給はタイトな状況です。よほど冬が寒くなるなどの気候変動がない限り、大きく需給バランスが崩れる心配はしていません。

Q3 今期、化学品のフッ素・スペシャリティの売上が伸びていない背景を教えてください。

A3 ライフサイエンスのうち農薬向けの中間体の出荷量が減少していることが一つの要因です。南米の農薬消費量が減り、流通在庫が溜まっていることもあり、当社製品の出荷が伸びていません。また、その他のフッ素製品は順調に伸びてきていますが、ヨウ素事業が昨年比で低調に推移しているのも一因です。

Q4 第4四半期の各事業の見通しを教えてください。

A4 ガラスは建築用ガラスの出荷が季節性もあり前四半期比で増加する見通しです。電子は液晶用ガラスの出荷は横ばいから微減、電子部材の出荷は増加する見通しです。化学品はクロール・アルカリの出荷が伸び、スプレッドも改善してきていることと、フッ素製品が需要期のため出荷が伸びることから、第3四半期比で増益を見込んでいます。

以 上